

付一 青島國粹会事件

764

昭和6年8月19日

在青島堀總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

國粹會員と中国人との喧嘩に端を発した暴行

事件の顛末につき報告

付記 八月十九日警視庁外事課小池(勇太郎) 警部より相場(清) 警視宛電話

中国人による国粹會員暴行事件に関する公電の有無につき問合せについて

青島 8月19日後発

本省 8月19日後着

第一九四號(至急)
十八日午後八時過當地青島神社北側國粹會本部(氷ノ販賣ヲ兼營ス)ニ於テ國粹會員ト中國人トカ喧嘩ヲ始メタルニ端ヲ發シ日支人間重輕傷者三十餘名ヲ出スノ椿事發生セリ其顛末左ノ如シ

一、二人ノ中國人力國粹會本部入口通路ニテ氷ノ搬出ヲ故意ニ邪魔シタルニ付立退方要求セル處彼等ハ矢庭ニ石コロ

ヲ以テ一國粹會員ノ頭部ヲ殴打セリ依テ同會員モ殴り返シタルニ彼等ハ豫メ手配セルモノノ如ク二百名近クノ應援者立所ニ來援シ國粹會本部ヲ襲撃盛ニ投石ヲ開始セル爲豫テ當館ノ注意ニ依リ隱忍シ居タル國粹會員モ自衛上已ムヲ得ス反擊ヲ加ヘ亂闘ヲ演スルニ至レルカ其内内報ニ依リ駆付ケタル中國巡警群集ノ鎮壓ニ努メタルヲ以テ群集ハ一時退散スルニ至レリ然ルニ彼等群集ハ退散ノ途中街路ニ於テ邦人ト見レハ誰彼ノ差別ナク直ニ襲撃石棍棒等ヲ以テ殴打シ又本邦人ノ住宅店舗ニ投石シタル爲遂ニ本邦人側ノ被害負傷者二十八名(當夜直ニ病院ニ收容サレタル者十二名(内二名重傷ナルモ生命ニ別状ナキ見込)家屋ノ損傷(主トシテ窓硝子ヲ破ラレタルモノ)約三十軒ヲ出スニ至レリ(中國側ノ負傷者八名ト稱ス當館松下巡查下顎ニ石塊ニ依ル打撲傷ヲ受ケタルモ重傷ナラス)

二、事件勃發ノ報ニ接スルヤ本官ハ直ニ我方警察官及消防隊員ノ非常召集ヲ行ヒ本邦人ノ保護ニ努メシムルト同時ニ一方公安局長ヲ往訪嚴重取締方要求セル處間モ無ク保安隊ノ出動ヲ見タルヲ以テ群衆モ漸次解散シ十一時過漸ク鎮靜ニ歸セリ

三、日頃國粹會ノ行動ニ不満ヲ抱ケル神社附近居住ノ労働階級中國人力鬱憤ヲ晴ラサンカ爲ニ相^(モダクアキ)當計畫的ニ本部襲撃ヲ目論ミ遂ニハツ當リ的行動ニ出テタルモノト認メラル

(一般的排日行動ノ現ハレトハ推サレス)

四、交渉方針

國粹會員ノ喧嘩ハ別トシ何等事件ト關係無キ本邦人及其家庭ヲ襲撃セルハ甚タ不都合ニ付本官ハ其點ヲ強調シ中國當局ニ對シ損害賠償ノ件ハ一時保留シ不取敢(=治安維持ノ不完全ナリシニ對シ市政府ヨリ遺憾ノ意ヲ表セシム)二犯罪者ノ檢舉處罰(三)將來ノ保障ノ三點ヲ要求スル意向ナリ

五、本件ハ何レ内外ノ新聞ニ誇大ニ報道セラルヘク又當地居留民等ヨリ内地要路ニ對シ打電ノ意向モ有ルニ付右事情不取敢電報ス

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、南京、北平、濟南、天津、奉天ニ轉電シ博山張店坊子ニ暗送セリ

(付記)

昭和六年八月十九日 后二、〇五分

青島國粹會の組織、活動等および事件の詳細につき報告方訓令

765

昭和6年8月19日

在青島堀總領事代理宛(電報)

(欄外記入)
青島來電写外事課長宛送付シタル旨亞細亞係長ニ電話スミ

八月二十日

本省 8月19日後8時25分発

第八〇號（暗）

貴電第一九四号ニ関シ

貴地國粹会ノ組織、内地國粹会其他類似團体トノ関係、會員ノ素質及其數、及日常ノ行動殊ニ冒頭貴電〔三〕中國人労働階級ノ怨恨ヲ買フニ至レル事情等（今回ノ喧嘩ノ發端ニ付テモ今少シク詳細ニ）可成詳細折返ヘシ回電アリタシ

冒頭貴電轉電先へ轉電セリ

766 昭和6年8月19日 待鳥（又）青島居留民団行政委員
会長より 币原外務大臣宛（電報）

中國人による日本人家庭等暴行事件に關し居

留民の生命財産保護につき請願

亞米利加丸無線 8月19日後発
本省 8月20日前着

昨十八日午後八時支那人群集ハ故意ニ邦人ノ營業ヲ妨害シ之ヲ機會トシテ老若男女ヲ問ハス當地居住邦人並家屋ニ殘虐ナル暴行ヲ加ヘ重輕傷者四十數名ヲ生シ家屋ノ損壊セラレタルモノ數十戸アリ此空前ノ珍事ハ全ク支那人ノ計畫的

暴行ニシテ而モ背後ニ市黨部ノ使嗾アリテ事件ヲ重大ナラシメタルモノト認メラル而シテ此種排日的行爲ハ日ニ増シ激烈ノ傾向アリ邦人生命財産ニ對スル不安甚タシク居留民一同眞ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ依リテ之力保護ニ對シ不敢抗議文ヲ送ルト共ニ本官十九日胡市長ヲ往訪嚴重抗議ヲ申入レタル處市長ハ本事件ノ發端ハ其責國粹會員ニアリトノ理由ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表示スルヲ肯ンセス依テ我方ヨ此際特ニ何分ノ御考慮ヲ切望ス

767 昭和6年8月20日 在青島堀總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

青島暴行事件を至急解決するため東北側要路

による胡市長説得方要請

青島 8月20日後発
本省 8月20日後着

第一九六號（至急）

往電第一九四號四ニ關シ

直ニ抗議文ヲ送ルト共ニ本官十九日胡市長ヲ往訪嚴重抗議ヲ申入レタル處市長ハ本事件ノ發端ハ其責國粹會員ニアリトノ理由ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表示スルヲ肯ンセス依テ我方ヨ

リ事件發生ノ責任問題ハ別トシ治安維持完全ナラサリシ點ニ付地方長官トシテ老若男女ヲ問ハス當地居住邦人並家屋ニ殘

ノ至急解決延テ激昂セル居留民乃至日本内地輿論ヲ鎮靜セシムル爲ニモ右ハ第一ニ實行スルノ要アル旨ヲ以テ引續キ

說得中ナリ

賠償及犯人ノ處罰ハ後廻トシ居留民一般ニ於テハ本件ニ關

シ市政府側ヨリ今以テ遺憾ノ意スラ表示セサルコトニ痛ク

激昂シ居ル次第ニモアリ出來得レハ奉天又ハ北平ニ於テ奉

天側要路ニ對シ東北側ト日本トノ間ニ不快ナル事件頻發シ

本邦輿論モ強硬化シ居ル今日青島事件ノ解決ヲ遷延スルハ

極メテ好マンカラサルニ付些細ナル面子論ニ捉ハルコト

ナク至急解決ノ要アル旨懇談ノ上胡市長ニ對シ本件急速解

決方私の勸告電報ニテモ發スル様至急御取計ヲ得ハ好都合

ナリト存ス

支、南京、北平、奉天ニ轉電セリ

769 昭和6年8月20日 在中国矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

青島暴行事件に關し日本人を非難する中国新

聞報道について

北平 8月20日後発
本省 8月20日後着

第三六七號

七 排日ボイコット問題

768 昭和6年8月20日

幣原外務大臣より
在青島堀（公一）總領事代理宛（電報）

青島暴行事件の迅速な地方的解決につき青島

ハ中國人魚屋ト衝突シ國粹會ニ援助ヲ求メタル處同會員多數ハ刀棍棒ヲ以テ華人二十餘名ヲ毆打負傷セシメ一人ヲ殺シ去リタル旨ノ青島來電ヲ報シ且右ハ中村大尉失踪事件ト共ニ日本ノ事端ヲ構ヘントスル苦肉ノ策ナリトカ又日本ハ滿州ニ示威演習ヲ實施シ衝突ヲ激成シテ日軍ノ増派ニ便シ一方各地在留日本人ヲシテ本件ノ如キ事件ヲ起サシメ居ルモノナリ等記載シ居レリ

支、南京、青島、奉天、間島へ轉電セリ

770 昭和6年8月20日
(幣原外務大臣より)
 在中國矢野公使館參事官
 在天津居總領事代理
 在奉天林總領事
 宛(電報)

青島暴行事件の急速地方的解決を各要人を介
 し張學良より胡市長に諭達要請方訓令

本省 8月20日後9時53分発
 合第四七九號(暗、至急)

本大臣發青島宛電報第八一號及青島發本大臣宛電報第一九六號ニ關シ

國粹會員トノ喧嘩ハ兎モ角トシ事後何等關係無キ邦人及家

(北平へハ) 張學良ニ對シ直接又ハ適當ノ者ヲ介シ
 (天津へハ) 張學銘ヲ介シ学良ニ對シ
 (奉天へハ) 殷主席其他ヲ介シ学良ニ對シ
 我方ノ憂惧スル所ヲ篤ト説明シ日支關係此上ノ悪化ヲ防止スル為メニハ本件ノ如キハ卒直且迅速ニ地方的解決ヲ計ルコト大局上必要ナル次第ヲ篤ト勸告セラレ同人ヨリ胡ニ對シ至急諭達セシムル様御取計アリ度
 支、南京ニ轉電セリ

(北平へハ) 訓令トシテ天津、奉天ニ轉電セリ
 (天津へハ) 訓令トシテ北平、奉天ニ轉電セリ
 (奉天へハ) 訓令トシテ北平、天津ニ轉電セリ

771 昭和6年8月20日
(在青島堀總領事代理より)
 在青島居總領事
 在青島居總領事代理
 在青島居總領事
 (北平へハ) 訓令トシテ天津、奉天ニ轉電セリ
 (天津へハ) 訓令トシテ北平、奉天ニ轉電セリ
 (奉天へハ) 訓令トシテ北平、天津ニ轉電セリ

コトトシ前記常備員ヲシテ之ニ當ラシメ來レリ
 二、常時ノ行動

綴上ノ通國粹會ハ一種ノ私立警備團ニシテ今日迄ノ行動ハ本邦人工場爭議等ニ當リ四五十名ノ警備員ヲ派遣シ又ハ神社ノ祭典運動會等ノ場合ニ場内取締ニ當リ若ハ喧嘩ノ仲裁等ナリ

右ノ實情ニ付中國工人ニ對シテハ得テ威壓的態度ニ出テ暴力ヲ振フコトモ少カラサルニ付(紡績、燐寸會社ニテ工人ヲ負傷セシメタル先例アリ)中國人ハ一般ニ同會ヲ喧嘩會ト稱シ日頃少カラス反感ヲ抱キ居リ前記營業開始ニ依リ利害關係上民國人小商人等ニ於テ怨ミヲ含ムモノアル實情ナルカ最近ニ於テハ青島神社ヨリ同社境內ニ野宿スル中國人勞働者苦力等ノ取締ヲ引受ケ毎夜常備員五六名ヲ派遣シ野宿セルモノニ對シテハ相當手荒キ手段ヲ以テ放逐ヲ試ミ一兩度ノ衝突ヲ見タル爲強ク彼等ノ反感ヲ買ヒタルモノノ如ク本件發生前ニ於テモ中國人ノ國粹會ニ對スル反感高マリ居レリトノ聞込モアリタルニ付當館ニ於テハ當時國粹會幹部ニ對シ充分行動ニ注意シ決シテ暴力ニ訴フヘカラサル旨懇々注意ヲ與ヘ置キタル次第ナリ

三、事件ノ發端

十八日午後八時迄中國人孟吉瑞ナル者國粹會水販賣部ノ入口ニ立チ邪魔ナルニ依リ一會員カ退去ヲ要求シタルニ孟ハ先ツ石塊續イテ椅子ヲ以テ會員ニ殴クリ掛リタル爲會員モ嚴リ返シタル處豫メ手配シ置キシモノト見工得物ヲ携ヘタル多數中國人時ヲ移サス來援シ國粹會本部ヲ襲撃シ始メタリ（暴民ノ來襲頗ル急速ニシテ統制アリ且各自棍棒等ヲ用意シ居リ又其投石ニ用ヒタル石材ハ附近ニ求メ得サル物ナル等ノ點ヨリ計畫的ニ行ハレタル疑充分ナリ）

當時國粹會本部ニハ常備會員僅ニ三名居合セタルノミナルヲ以テ直ニ表戸ヲ鎖シ無抵抗主義ヲ執リタルモ彼等ノ投石益々激シク危險切迫セルヲ以テ青島神社警戒中ノ會員六名ヲ電話ニテ呼返シ又市内普通會員ニ應援ヲ求メ暴徒ノ擊退ニ努メタルカ其間日華双方ノ彌次馬モ加ハリ遂ニ亂闘トナリタル次第ナリ

右ノ經緯ナルヲ以テ直ニ一般的反日行動ノ現ハレト見ルハ當ラサルヤニ思料セラル

我居留民團ノ請願電報中ニハ中國巡警力暴徒ニ加擔シ又黨部員カ糸ヲ引キタルカ如ク記述セルモ右ハ風説ニテ據ルヘ

支、北平、南京、天津、奉天、濟南へ轉電セリ

772 昭和6年8月21日 在青島堀總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

青島暴行事件に關し遺憾の意表明、國粹會の解散など五項目の中國側要求について

青島 8月21日後発
本省 8月22日前着

第一九九號

往電第一九六號ニ關シ

中國側ハ當方ノ抗議書ニ對スル回答ノ形トセス別個二十九日附ヲ以テ

一、領事館ハ市政府ニ對シテ遺憾ノ意ヲ表スル事
二、暴行者ノ檢舉處罰
三、國粹會暴力團ノ解散

四、將來ノ保障

五、被害者ニ對スル損害ノ賠償

ノ五項實行方要求シ來レリ不取敢
支、南京、北平、奉天、天津、濟南ニ轉電セリ

四、双方ノ負傷者

日本側、病院ニ收容中ノ者十六名（内女一名）通院者二名（外ニ家庭ニテ治療セルモノ約十名ノ見込）傷ハ全部石又ハ棍棒ヲ以テセル打撲傷、擦過傷又ハ骨折等ニシテ全治迄五日乃至四週間ヲ要スル程度ナリ

中國側

入院者十名内二名ノ鈍器ニ依ル裂傷ヲ除ク外ハ全部銳利ナル刃物ニ依ル切傷ニシテ（長サ三寸乃至七寸深サ三分乃至一寸、全治迄四日乃至二週間ヲ要スル見込）然モ全部背面ニ在リ負傷程度ハ中國側遙ニ激甚ナリ（但シ目下ノ處日華双方共生命ノ危險有ルモノ無シ）中國側負傷者中ニハ二名ノ公安局員アリ兩國負傷者ハ當館員市政府役員ト共ニ獨、日、中三國ノ醫師ヲ伴ヒ實地臨檢セルモノナルカ兩國側トモ事件ニ直接關係無キ者多數有リ

五、現在ノ狀況

事件落着後中國人側ニ再舉等ノ模様無ク現在ハ平穏殆ト平常ト異ナル所無シ

公使ヨリ上海へ轉報シ上海ヨリ漢口へ轉電ヲ請フ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

773 昭和6年8月22日 在中国矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

青島暴行事件の迅速地方的解決につき胡市長
に諭達方張學良に要請について

北平 8月22日後発
本省 8月22日後着

第三六八號

貴電合第四七九號ニ關シ

二十二日張學良ニ面會シ本件事件ノ真相ヲ青島來電ニ依リ説明シ胡市長トノ交渉狀況ニ言及シ我方ノ穩當ナル條件ニ依リ迅速ニ本件地方的解決ヲ計ルコトノ大局上極メテ必要ナル所以下篤ト説明シ胡市長ニ對シ右ノ旨至急諭達方懇々申入レタル處張ハ熱心ニ之ヲ傾聽シ本件ニ付テハ自分ハ未タ何等報告ニ接セス唯新聞報道ニ依リ承知スルノミナルカ貴官ノ説明ハ右報道ト大部相違シ居ル様思ハル何レニスルモ青島ハ自分ノ管轄ニ屬セス且本件ニ付中央政府ハ胡市長ニ如何ナル命令ヲ下シタルヤ承知セサルモ現在日華兩國間

ニハ幾多未解決ノ案件アリテ輿論ヲ刺戟シ居ル際本件ノ如キハ出來ル丈急速ニ地方的解決ヲ計リ以テ事態ノ悪化ヲ防止スルコトハ自分トシテモ全然同感ナルカ故胡市長ニ對シ同人ノ權限内ニテ出來ル限り至急圓滿解決ニ努力方勧告ノ電報ヲ發スルコトトスヘシト答ヘタリ

支、南京、奉天、天津、青島へ轉電セリ

774 昭和6年8月23日 在青島堀總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

青島暴行事件に關し胡秘書長と正式会見遺憾の意表示、將來の保証等で概ね合意について

青島 8月23日後発
本省 8月23日後着

第二〇〇號
往電第一九六號ニ關シ

貴電第八一號御訓令ノ次第モ有り本件急速解決ヲ旨トシ左ノ通取計タリ

一、二十三日本官胡家鳳秘書長ト國際俱樂部ニ於テ正式ニ會見シ(當方說得ニ拘ラス市長ノ當館來訪ヲ肯ンセサルニ

表セサルコトセリ尤モ民國側ニテ犯人逮捕ノ事實ハ會見内容トセシテ發表セリ

三、處罰ハ今後モ時々督促スヘキ處先方ハ喧嘩兩成敗ノ見地ヲ抱キ居リ從テ邦人關係者ヲ處罰セサル限り先方ノミ處罰ヲ實行セシムルコト困難ナルヘク邦人關係者ハ何レモ自衛上已ムヲ得サルニ出テタリト申立テ居リ反證モ無キ次第ナレハ民國人犯人モ法院移送後果シテ處罰セラルゝヤ疑問ナリ

四、賠償ノ件ハ別ニ電報ス

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

公使、北平、南京、奉天、天津、濟南へ轉電セリ

775 昭和6年8月24日 在青島堀總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

青島暴行事件の損害賠償交渉に際し我が方方針につき請訓

青島 8月24日後発
本省 8月24日後着

付場所ヲ國際俱樂部トシ又新聞等ニ對シテハ胡市長ハ身體ノ具合惡シ出席出來サルニ付秘書長カ代理トシテ會見シタルコトトセリ)

(一)胡秘書長ヨリ本暴行事件發生シ地方治安ニ障害ヲ及ホシタルヲ殊ニ遺憾トスル旨述ヘタルニ對シ本官ヨリ右諒承スルト共ニ民國人中ニモ負傷者有ル由ニテ右ハ當方トシテモ誠ニ氣ノ毒ニ存スル旨回答シタリ(右ニテ遺憾ノ意表示ノ件ハ打切りトセリ)

(二)次ニ本官ヨリ將來ノ保證ニ付今後ノ治安維持並ニ事件再發防止ハ極メテ重要ナルニ付市政府ニ於テ責任ヲ以テ之ニ當ラレ度キ旨申入レ胡ヨリ治安維持ハ市政府當然ノ責務ニシテ此上トモ萬全ヲ期スヘキ旨回答セリ(保證ノ件ハ之ニテ打切りトセリ)

(三)次ニ胡ヨリ本件關係者ハ公安局ニテ嚴密調查中ナル力(主謀者ト覺シキ者四名ヲ逮捕シタル由)日本側ノ措置振承知致度キ旨申出テ本官ヨリ民國人犯人ハ嚴査ノ上證據アラハ嚴重處罰セラルゝコトト信スルカ當方ニ於テモ右方針ニテ調査中ナル旨回答シ右ニテ會見ヲ終レリ

二、右(一)及(二)ハ新聞ニ發表(三)ノ應答ハ先方ノ要求ニ依リ發

往電第二〇〇號ニ關シ

本件交渉中陳謝及保障ノ點ハ不滿足乍ラ右往電ノ程度ニテ一段落トシ次ニ損害賠償ノ交渉ニ移ル豫定ナル處

(一)當方ヨリ(イ)負傷者ノ直接損害(巡查二名ヲ除ク負傷者三十五名ノ入院料通院料等一千六百元見當)(ロ)負傷者ニ對スル慰藉料(一人當リ二、三十元見當)(ハ)被害家屋ノ損害(查定額金約二百圓)ニ付正式ニ請求シ之力貫徹ニ努力スル所存ナルモ民國側ニ於テモ入院負傷者十名ニ及ヒ既電ノ通賠償要求權ヲ留保シ居ル關係モアリ右要求ノ達成ハ實際上困難ト認メラルルニ付

(二)負傷者ノ損害賠償ハ相殺トシ慰藉ハ双方ヨリ見舞金トシテ一定額ヲ支出スル事ニ妥結スルト共ニ家屋ノ損害ハ一方のナルニ付飽迄請求スル事(ト)スル等妥協の方針ヲ以テ進ムカ

(三)又ハ實際上ノ賠償金取得如何ヲ度外視シ民國側ノ要求ハ之ヲ拒絶シ飽迄前記(一)ヲ主張シ以テ本件全責任ハ民國側ニアリトノ我方建前ヲ押通ス事トスルカ(此場合實際上賠償問題ハ懸案トシテ殘ル事トナルヘキカ在留民中ニハ此說ニ贊成スル者多キ模様ナリ)ノ外ナキヤニ認メラル處右ニ

付本省ノ御意図豫メ御回示アリ度ク又(二)ノ場合ニハ三百元乃至五百元見當ノ見舞金支出方御詮議置キ相成度シ
支、南京、北平、奉天、天津へ轉電セリ

貴下ニ於テモ右ニ留意セラレ可能ノ範圍ニ於テ至急解決ヲ圖ラレントヲ切望ス云々ト述ヘタルモノナリ
公使、南京、奉天、天津、青島へ轉電セリ

776 昭和6年8月24日 在中國矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛(電報)

青島暴行事件至急解決を切望する張學良より
胡市長宛電報について

北平 8月24日後発
本省 8月24日後着

第三七〇號
往電第三六八號ニ關シ

二十四日張學良ハ特ニ唐尙銘ヲ派シ本官申入ニ基キ二十二日發出セル胡若愚宛電報寫ヲ手交セシメタルカ右ハ先ツ本官トノ會談要領ヲ述ヘ且事件ノ真相ハ承知セサルモ其原因ハ個人ノ喧嘩ニシテ極メテ小事件ナル處中日間各種問題續出ノ際此種小事件ハ至急解決ヲ可トス日本外交當局ハ兩國國交ニ對シ極メテ盡力シ居リ日本外務大臣ハ本問題力不良ノ影響ヲ生スヘキヲ恐レ本件解決ヲ切望シ居ラル、趣ニ付

777 昭和6年8月25日 在青島堀總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

青島暴行事件に対する居留民の対応について

青島 8月25日後発
本省 8月25日後着

第二〇三號
往電第二〇〇號ノ措置ニ關シ居留民中有識者間ニ於テハ大

体豫期シタル程度ニテ一段落ヲ告ケタルモノト考ヘ居ル模様ナルモ今後本問題ヲ好個ノロ實トシ一般的反日運動及法權問題等ヲ有利ニ展開セント目論ミツツアリ又一部居留民ハ依然強カリヲ唱ヘ本件地方的解決ヲ不満トシテ更ニ大會等開催セント計畫シ居ルモ穩便ナル態度ヲ持スヘキ様指導シ居レリ

尤モ最近各地方小事件ノ頻發ニ伴ヒ居留民ノ對華感情漸次惡化シ一般ニ對華强硬態度ヲ主張スル傾向アルヤニ認メラ

支、北平、南京、奉天へ轉電セリ

778 昭和6年8月28日 币原外務大臣より
在青島堀總領事代理宛(電報)

青島暴行事件に關し陳謝等については胡秘書長との合意に基づくも損害賠償では主張貫徹方訓令

本省 8月28日後4時56分発

第八四號(暗、至急)

貴電第二〇二号ニ関シ

假リニ國粹會平常ノ行動ニ中國人ノ恨ヲ買フカ如キ節アリ

タリトスルモ累次貴電ニ據レハ本件力明カニ中國労働者ノ

手出シニ始マリ而モ其ノ計畫的暴行ナルノ證歴然タルモノアリ殊ニ衝突後中國暴民力退散ノ途中何等關係無キ邦人及家屋等ニ誰彼ノ差別無ク暴行ヲ勵キタル事實ヨリ見テ中國側ニ於テ之カ責任ヲ負ハサル可ラサルコト疑フノ餘地ナキ所ナリト認メラル就テハ陳謝及保障ノ件ハ貴電第二〇〇号

ノ程度ニテ落着セシムルコト諸般ノ情勢上已ムヲ得サルヘキモ損害賠償ニ付テハ以上ノ事實ヲ強調セラレ冒頭貴電(一)

779 昭和6年8月31日 币原外務大臣より
在青島堀總領事代理宛(電報)

青島暴行事件に対する國粹會本部慰問團の取扱いにつき訓令

本省 8月31日後4時17分発

第八五號(暗)

員五名) ヲ派遣スルコトヽナルヘキ旨述ベタル處(右參ケ班全部方貴地ニ赴クベキヤ否ヤハ疑ハシキモ少クモ二ヶ班位ハ近ク出發ノコトヽナルヘシト思ハル) 貴電第一九八号

ノ次第モアリ内地国粹會側ヲシテ餘リ目立チタル策動ヲセシメサル様囊ニ非公式ニ内務省側ニ依頼シ置キタルモ此際當方ヨリ餘リ干渉スルコトハ却テ彼等ヲ激發シ不安カラスト認メラルヽニ付慰問班ノ派遣ニ付テモ次官ヨリ貴地其後

ノ実況ヲ説明シ現地ニ於テ濫リニ騒キ立テスルカ如キコト無キ様一通り注意スルニ止メ置キタリ就テハ右御含ノ上慰問班ノ取扱ニ付テハ御如才無キ様御取計アリ度

尚内地国粹會ノ策動ニ關スル主務官廳ノ情報別途郵報ス

780 昭和6年9月9日 在青島川越総領事宛(電報)

幣原外務大臣より
在青島川越総領事宛(電報)

第八七號(暗) 本省 9月9日後3時13分発

往電第八四号ニ関シ

其後ノ交渉狀況至急回電アリタシ

青島暴行事件未解決事項、損害賠償および犯人処罰などに関する交渉狀況につき報告

青島 9月10日後発
本省 9月10日後着

第二一九號

貴電第八七號ニ關シ

一、三日本官胡市長ヲ往訪シ自分ノ在京中日本朝野ノ對華態度ヲ觀察セルニ満蒙等ニ於テ頻發スル各種不祥事件ヲ動機トシ國論頗ル硬化シ一般國民ノ感情モ甚シク尖銳化シタルヤニ看取セラレ兩國ノ爲憂慮ニ堪ヘスト思ヒ居タル矢先更ニ青島事件ノ發生アリ日本各方面ニ意外ノ衝動ヲ與ヘ前記情勢ヲ更ニ助長セルハ事實ナリ從テ萬一此種事件ノ發生アランカ其結果カ頗ル重要且不幸ナルモノアルヘキハ最早疑ノ餘地ナシ然ルニ本官歸任後當地ノ狀況ヲ見ルニ居留民ノ神經モ相當過敏トナリ必スシモ樂觀ヲ許サアルモノアルニ付自分トシテハ只管右險惡ナル空氣ノ緩和ニ努力シツアル次第ナルカ右緩和ノ方策トシテハ(一)本事件ノ未解決事

項ヲ至急解決スルコト(二)反日會ニ對スル市政府ノ誠意アル取締ハ自分ノ多トル處ナルモ反日會ノ如キ非合法的團体カ殊ニ麗々シク「反日」ト銘ヲ打ツテ存在スルコトハ一層居留民ノ感情ヲ惡化セシメ事件ノ因ヲ爲スニ至ルヘキヲ以テ更ニ一步ヲ進メテ反日會ヲ解散セシムルコト等差當リ最有效ナルヘシト思考セラレ右ハ市長ニ於テモ同感ナルヘキニ付充分盡力セラレタキ旨申入レタルニ(當地居留民有識者ハ本事件ノ解決モ去ルコト乍ラ之ヲ機會ニ反日會ノ解散乃至ハ其策動取締ヲ要望シ居レリ)

胡市長ハ反日會ハ全國的ノモノニシテ當地限リ解散セシムルコトハ實際上至難ナル立場ニアルモ自分個人トシテハ貴見ニ同感ナルニ付個人トシテ中央ニ進言スヘク又之力取締ハ從來最善ヲ盡シ居ル次第ナルカ今後トモ直接ニ又ハ適當ナル筋ヲ通シ充分貴意ニ副フ様致スヘシト答ヘ(反日會力

實際上活動スルニ至ラサルハ既報ノ通ナルカ最近ハ支那新聞ニモ餘リ書キ立テサル様ニナレリ)

更ニ胡ヨリ國粹會ハ事件ヲ起ス因トナルニ付解散セシメラレタキ旨申出アリタルニ付本官ヨリ國粹會ハ動モスレハ暴力團ト誤解セラルルコトアルモ同會ノ趣旨ハ頗ル正當ナル

782 昭和6年9月18日 在青島川越総領事より

幣原外務大臣宛

國粹會本部理事長一行の動靜につき報告

昭和六年九月十八日

(9月29日接受)

在青島

總領事 川越 茂 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

國粹會總本部理事長一行ノ動靜ニ關スル件

一、大日本國粹會總本部理事長中安信三郎同總裁秘書長堀川辰吉郎同京都本部總務荒木卯之助同大阪本部理事福山善之助四名ハ九月十一日泰山丸ニテ來青國粹會開係者各新聞記者民團理事商工會議所理事東部工業會代表等ノ出迎裡ニ上陸直ニ大和ホテルニ入レリ

二、九月十一日新聞記者トノ會見席上中安理事長ハ今回來青ノ目的ハ奉天路事件ニ對スル慰問ヲ兼ネ青島ノ實情ヲ調査ノ上母國ニ紹介セムトスルニ在リト前提シ(1)八月二十一日ノ閣議ニ於テ幣原外務大臣ハ本事件ノ原因ヲ國粹會員平素ノ不良行動ニ歸シタルカ如キ報告ヲナシタル趣傳聞セシニ依リ自分ハ直チニ上京外相並ニ次官ニ對シ右眞相ヲ質スト共ニ國粹會ノ存立趣旨ヲ説明セル處兩氏共了解セラレタリ(2)其後陸軍海軍兩省ニモ出頭シ本件ニ關シ談合セルガ何レモ大ナル共鳴ヲ得殊ニ南陸相ノ如キハ青島事件調査後ハ更ニ進シテ滿蒙ノ實情ヲモ調査セラレ度シト聲援ヲ與ヘラ

レタリ右ハ畢竟内閣方面ニ於テモ本會存在ノ意味ヲ充分認識サレタルニ因ルモノニシテ此際居留民諸士ニ何等御希望モアラハ中央ニ傳達ノ勞ヲ惜マサルヘシ
(1)元來今回ノ事件ノ如キモ中國人ガ極度ニ邦人ヲ侮蔑セル優柔不斷ノ外交ヲ排斥シ中國人ノ反省ヲ促スノ策ニ出テサル可ラス(2)今後若シ我國力露國或ハ中國ト戰フ時機ニ到達セバ其第一線ニ立ツ者ハ必ス國粹會員ナリト確信ス云々トノ意味ヲ述ヘタリ

三、十一日夜一行ハ邦人工場關係者ヨリ料亭三浦屋ニ招待サレタルガ主人側ヨリ從來中國工人ノ擾亂事件等ニ際シ種々國粹會員ノ援助ヲ受ケタル點ヲ多トスル旨謝意ヲ表シ同時ニ今後共万般ノ援助ヲ望ムト挨拶セルニ對シ中安理事長ハ今ノ奉天路事件ハ中村大尉事件ト關聯シ我陸軍當局ハ頗ル强硬ナル意見ヲ抱キ居レルニ付居留民諸士ハ相結束シテ目的貫徹ニ努力セラレ度シ等聊カ煽動的言辭ヲ以テ之ニ答へタリ

四、翌十二日午后一時ヨリハ民團ニ於テ第一次居留民大會幹事第二次居留民大會實行委員行政委員區委員等五十餘名

ト會見シタルカ中安理事長ハ奉天路事件ニ對スル慰問ノ辭ヲ述ヘタル上外務大臣ノ閣議ニ於ケル奉天路事件ノ發表振ヲ非難シ今後ノ交渉ニ關シテハ万全ヲ期シ度ニ付此上トモ在留民各位ノ援助ヲ望ム云々トノ意味ヲ述ヘタリ
五、十二日夜ハ第一次第二次居留民大會幹部行政委員商工會議所合同ノグランドホテルニ於ケル晚餐會ニ臨ミタルガ宴后當地國粹會ノ維持方法發展策ニ關シ協議ノ結果寄附募集豫備員約五十名ノ增員等ノ說出テタルモ具体的決定ヲ見ス散會セリ

六、十三日一行ハ各個ニ市内知(2)ヲ訪問シ奉天路事件ノ調査ヲ行ヒタル模様ナリ

編注 「附」の後に「金」との書き込みあり。

本信寫送付先 公使 奉天 天津 關東廳 朝鮮總督府